

### 学士3

研究テーマ	内 容	発表方法、媒体 (研究誌名、研究会等名)
アジア現代美術に関する調査研究	<p>過去2度にわたりアジアの現代美術に関する展覧会に関わり、美術状況や作家の調査を行ってきた。その成果にたち、開館記念展に招聘する作家の検討および交渉に当たるとともに、中国作家・蔡國強の個展開催に向け調査研究を行っている(継続中)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論文「アジアの可能性」(アジアの想像力) 展カタログ(平成6年9月)</li> <li>○論文「アーティクル9」(Project Article 9) 展カタログ(平成7年3月:アメリカ・クイーンズ美術館)</li> <li>○論文「東南アジアー美術の現在」(東南アジア1997・来るべき美術のために) 展カタログ(平成9年4月)</li> <li>○美術講座「東南アジアの現代美術」(平成9年8月30日:岡山県立美術館=同館主催)</li> <li>○美術講座「現代美術の動向」(平成14年2月15日:岡山県立美術館=同館主催)</li> </ul>
日本近現代工芸に関する調査研究	<p>陶芸を中心とした日本の工芸美術運動に関する調査研究を行い、その検討結果をもとに「開館記念展」の出品候補作の選定、出品交渉を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論文「京都のやきものの先達たち」(平成1年:『現代日本の陶芸家達』学習研究社)</li> <li>○論文「石黒宗麿」他(平成4年:『陶芸の遺産』マリア書房)</li> <li>○論文「八木一夫の仕事」(平成7年:『今日の手わざ』求龍堂)</li> <li>○講演会「美術の現在および工芸の可能性」(平成14年6月13日:多摩美術大学=同大学主催)</li> </ul>
近代美術における官展の役割と成果に関する調査研究	<p>文展を始まりとする官展の流れについて研究を進めると共に、その成果を代表作によって紹介する「日展100年展」の準備を進めている(継続中)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○論文「日本美術の20世紀ー20世紀末の地平から」(日本美術の20世紀) 展カタログ(平成12年9月)</li> <li>○論文「宮之原謙」他(平成2年:『昭和の美術』毎日新聞社)</li> </ul>
日本の美術館の特質、活動、現状、課題等に関する調査研究	<p>日本の美術館の現状と課題、美術作品の調査・収集・保存、展覧会や教育プログラムなどの展示・普及事業、学芸員の職務、美術館と関係機関、市民等との関わりなど、現在の美術館が抱える諸問題に関する研究を行ってきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講演会「日本の現代美術」(平成8年10月1日:オーストラリア・ニューサウスウェールズ州立美術館=同館、国際交流基金主催)</li> <li>○シンポジウム「広島から美術館と美術文化の意味を問い合わせる」(平成16年12月11日:広島県立美術館=広島比較美術研究会主催、広島芸術学会共催、広島大学総合科学部後援)</li> </ul>